

第1回新たなグリーンホールの整備に向けた専門家検討会議 議事要旨

- 1 日時 令和7年3月24日(月)午後5時から
- 2 場所 調布市役所5階市長公室
- 3 出席者
 - (1) 委員 10人
 - (2) 事務局 生活文化スポーツ部 5人
 - (3) 事務局 行政経営部 2人

次第1 開会

次第2 市長挨拶

皆様こんにちは。市長の長友です。委員の皆様におかれましては、年度末の御多忙の中、御参集いただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆様の議論に市も期待を寄せさせていただき、新たなグリーンホールをより良いものにできたらと思っていることをまずは申し上げたいと思います。

今年は、昭和30年4月1日に調布と神代という2つのまちが合併して、調布市が市制施行してから70年を迎えます。70周年という節目のこの秋には、式典も予定しており、調布市がこれまで発展してきたことに対し、先人に感謝申し上げるとともに、未来を切り開いていければと考えております。市は、10年前の市制施行60周年のときに、「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」をしました。この宣言は、現在24万人の市民の皆さんの生活にとっても欠かせないものとなっております。多様な主体との連携の下、多彩な文化芸術に係る取組を展開し、市としても文化芸術というものを大事にしていきたいという思いで取り組んでおります。

こうした経過・背景の中で、このグリーンホールは、昭和52年の開館以来、半世紀近くにわたり、質の高い文化芸術に触れるとともに、誰もが文化芸術活動を行い、発表する場として利用されている施設であります。そうした中、施設設備の経年劣化や、バリアフリーへの対応などが課題となっているほか、利用者ニーズや時代の変化を踏まえた機能の改善が必要となっております。こうした施設の課題への対応や、調布駅前新たな賑わいを創出するため、総合福祉センター部分を含む現敷地における新たなグリーンホールの整備に向けた取組を進めています。

建替え後においても、市民の文化芸術の拠点としての機能を継承していくことを目指して、これまでに実施した各種市民アンケートにおいては、優先的に取り組むべきこととして、施設のバリアフリーなどのホール機能の改善のほか、災害時の避難所対応や調布駅前広場との連携、民間施設との複合によるにぎわいの創出、日常からにぎわいを生み出す機能の付加といったことを期待する声が寄せられています。こうした意見も踏まえ、委員の皆様におかれましては、様々な専門的な視点から御議論いただき、新たなグリーンホールの整備に向けた基本構想の策定にお力添えをいただけましたらと考えております。

最後に、市の文化芸術の益々の発展に向けて、委員の皆様のそれぞれの視点で忌憚のない御意見をいただきますようお願い申しあげまして、私の挨拶とさせていただきます。

次第3 委員紹介・事務局紹介

委員・事務局からあいさつ

次第4 会長・副会長の選任

検討会議要綱に基づき、佐藤委員が会長、谷内委員が副会長に選任された。

次第5 議事

・事務局から資料の説明

○A委員

資料5の専門家検討会議開催予定の第2回において、「調布市文化芸術推進ビジョンの策定について」とありますが、これは現在、市で策定を進めているビジョンという認識でよろしいでしょうか。

そこで重要なのが、このビジョンの方向性です。そのビジョンの策定を受けてグリーンホールの目指す姿を考えていかなければいけないと思います。また、そのビジョンを受けてこの会議があるわけですから、2回の検討会議だけで終わってしまってよいものか、いかがでしょうか。このビジョンの策定を受けて、劇場の機能をどうするか、ゾーニングをどう考えるかが決まってくると思います。ビジョンの内容が明確でないと検討ができないのではないかと思います。もう少し詳しく話を伺いたいです。

○会長

それでは、調布市文化芸術推進ビジョンの策定の経緯について、事務局より説明をお願いします。

○事務局

御質問いただきました、調布市文化芸術推進ビジョンについては、次回の検討会議で共有させていただければと思いますが、3月末の策定を目指し、本日午前中に最終確認のための調布市文化芸術推進ビジョンの検討委員会を開催したところです。

ビジョンの概要については、施策を1から5で設定し、市がどのように施策を展開していくかということを決めています。例えば、施策の1では、「誰もが鑑賞・参加し、創造することができる文化芸術を通じた共生社会の充実」、また施策の4では「関連分野との有機的な連携による文化芸術の推進」としており、文化芸術のみならず、教育や福祉、国際交流など関連分野と連携しながら今後文化施策を推進していくというビジョンを策定予定ですので、次回検討会議で概要をお示しいたします。

○会長

調布市文化芸術推進ビジョンが公表される時期はいつでしょうか。

○事務局

3月末に策定予定なので、4月の早い段階での公表を予定しています。

○会長

4月の公表されたタイミングで委員の皆さんに事前に情報共有していただき、6月の検討会議を迎えられるとよいと思います。

○B委員

調布市文化芸術推進ビジョンは、別の委員会で策定し、この検討会議で期待されているのは、そのビジョンからグリーンホールが目指す姿を紐解いてほしいという理解で間違いないでしょうか。

○事務局

ビジョン策定の委員会とこの検討会議は別の会議体です。

検討に当たっては、このビジョンだけではありませんが、市の文化施策を推進していくための目標を掲げているものでありますので、その内容も参考にさせていただきたいと考えています。

○会長

この検討会議では、調布市文化芸術推進ビジョンの内容を議論するのではなく、すでに策定されたビジョンの内容を踏まえて、グリーンホールの建替えに向けた検討を行うというイメージでよろしいでしょうか。

○事務局

はい、そうです。この検討会議では新たなグリーンホールの整備に向けた内容を御議論いただきたいと思っています。ただ、委員からの発言にもありましており、市の文化施策を示したビジョンを第2回で報告し、確認していただきながら、新たなグリーンホールの整備に関する検討を進めていければと思います。

○C委員

資料5 専門家検討会議開催予定で、8月頃に開催予定となっている第3回の会議で、「市民ワークショップの報告」とありますが、そうすると7月頃にワークショップを開催予定だと思いますがどのような形のワークショップを行うのでしょうか。また、このワークショップには、障害のある方にも参加してもらい、御意見をもらえるとよいと思いますが、具体的な広報の方法や内容が決まっていれば教えてください。

○事務局

具体的なワークショップの手法については、まだ決まっていますが、事務局で手法を検討し第2回の会議でお伝えしたいと考えています。これまでも市民アンケートやオープンハウス等の手法で市民の皆様から多くの御意見をいただいております。その中で、新たなグリーンホールの民間複合施設と調布駅前広場との連携によるにぎわい創出への期待の声をいただいております。また、ホールの機能について、どのようなホールを期待しているかなど、さらに市民の意見を聞いていきたいと思えます。ワークショップでは、新たなグリーンホールと調布駅前広場との連携によるにぎわい創出と、ホール機能の2点の内容に広く御意見をいただければと考えています。

現在のグリーンホールにはバリアフリーの課題がございますので、障害のある方への周知についても関係機関に相談をしながら進めていければと考えています。

○B委員

事務局の説明の中で、利用団体にもヒアリングを実施するとありましたが、そのスケジュールや期間と専門家検討会議の進行との関連性を教えてください。

○事務局

資料5の専門家検討会議開催予定に記載しているとおり、第3回の会議で利用団体へのヒアリング内容やワークショップでいただいた市民意見を報告したいと考えています。したがって、各利用者団体へのヒアリングを4月以降順次進めていく予定です。

○B委員

そうすると、利用団体へのヒアリングや市民ワークショップの結果を踏まえた上で、新たなグリーンホールの基本理念を決めていくという順序が相応しいと思いますが、第3回検討会議で報告になると、すでに基本理念が決まっているというスケジュールになっていると思います。

例えば、第2回検討会議でヒアリングや市民ワークショップの報告をしてもらい、そこで議論し、第3回検討会議で決定するという順序ではいかがでしょうか。

○事務局

資料5の専門家検討会議開催予定と主な議題については、現時点で事務局が考えている内容を委員の皆さんにお示ししています。ただいま御意見いただいた内容を加味したうえで、検討会議の中での議論と市民ワークショップ等で得られた御意見も踏まえて、グリーンホールの目指すべき方向を定めていけるように進めていく予定です。

○D委員

現状のグリーンホールの利用状況について、概要のわかるデータがあるとよいと思います。市が主催で実施しているものや貸し館として利用されているものなど、様々あると思いますが、現状のニーズを満たさなければいけないと思います。今のグリーンホールが果たしている役割を明示してもらいたいです。

○会長

現状の施設利用状況については、参考資料2に記載していますが、いかがでしょうか。

○D委員

音楽や演劇等で利用している団体がわかるようなもう少し詳細のデータがあれば、現状の利用状況がより明確に見えてくると思います。

○事務局

もう少し細かいデータをお示しできるか事務局で検討し、よりわかりやすい資料をお示しできればと思います。

○B委員

参考資料2のグリーンホールの利用状況のデータがコロナウイルス感染拡大前のデータなので、コロナ禍後の情報があると参考になると思います。

○事務局

現状、コロナウイルス感染拡大前のデータですが、並行してコロナ禍後の状況についてもまとめます。完成次第委員の皆様と共有できればと思います。

○B委員

利用団体と利用目的の内訳のその他の割合もかなり大きいので、その部分もわかるようにしていただくと思います。

○A委員

これからの日本は、人口減少、少子高齢化、税収減など、さまざまな構造的課題が山積しています。その中であって、この検討会議は、将来を見据えたグリーンホールの議論が必要であることから、将来的な調布市の人口や税収、社会情勢を踏まえた新たなグリーンホールの目指す姿を考えていかなければならないと思います。5年後、10年後に調布市がどのようになっていくかというものがわかる資料が必要だと思います。例えば、人口や教育の面で生徒数・児童数といった子育ての分野、障害者の方がどれだけ社会参加できているのか、市財政の状況がどのように維持できているのかといった行政データがあればお示しいただくと議論の参考になると思います。

次回6月の検討会議前までにそういった資料があるとよいと思います。

○事務局

人口予測や生徒数などのデータは市として持っているものがありますので、用意できるものを次回の検討会議までにお渡しできるようにしたいと思います。

○事務局

文化芸術推進ビジョンにも市の現況を記載しているので、事前に参考としてお知らせいたします。

○E委員

市のグリーンホール、たづくり及びせんがわ劇場の3館の文化施設を日々運営しているのは、指定管理者の調布市文化・コミュニティ振興財団であり、そこに生の体験値や市民からの声が蓄積されていると思うので、そのあたりのお話をメモでもよいので伺えたらと思います。

○事務局

実際に運営している財団にも、市民からどのような意見があるのか、また、運営して感じている点など意見を確認しておきたいと思います。

○F委員

グリーンホールと調布駅前広場で双方の相乗効果によるにぎわいが生まれるとよいと思うので、駅前広場が目指している姿についても情報をいただくと助かります。

○事務局

新たなグリーンホールの整備に向けては、市としても駅前広場との連携による効果を生み出していきたいと考えています。そのための新たなグリーンホールの施設のゾーニング区分案についても、検討会議の中でお示ししていきたいと考えています。また、駅前広場の完成予想図のような資料は事前にお示しできればと思います。

○G委員

新たなグリーンホールを整備する大義名分を明確にし、市民に広く共有することが大切だと思います。市民アンケートも興味・関心のある方の意見は集まるとは思います。が、あまり興味がなかったり、知らない市民が多いと思うので、その辺りの進め方を工夫していただくとよいと思います。

○会長

他にございませんか。

それでは第1回新たなグリーンホールの整備に向けた専門家検討会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

—了—